

金型メーカーの新戦略

人手不足を打破する「高生産性金型」への転換

日本の製造業は今、かつてない危機に直面しています。厚生労働省の調査では、製造業への新卒就職者はこの20年で半減(約28万人→13万人)しました。さらに熟練技能者の引退も重なり、現場の「質」を維持することが極めて困難になっています。

成形加工の現場では、技能者が減ることで以下の深刻な問題が噴出しています。

- メンテナンス不足による不具合の増加
- 成形条件の調整不足による歩留まりの悪化
- 不良品の流出と生産性の低下

今、金型メーカーに求められているのは、単に「安く、精度の良い金型」を作ることではありません。「技能者の腕や手間に頼らず、誰が打っても生産性が最大化する金型」を作ることです。

1. 「ガスベント」が生産性の命運を握る

成形加工における最大のボトルネックは、**ガスベントの詰まり**です。

ガスが滞留すれば、ヤニの付着やショートショットが発生し、そのたびにラインを止めて清掃や条件調整を行わなければなりません。

金型メーカーが取り組むべきは、以下の2点に集約されます。

- 詰まりにくい設計: 効果的な位置へのベント配置と構造の最適化。
- 既存金型の改善: 現場の負を取り除くアップグレード提案。

2. 究極の解決策:瞬間吸引による「無停止成形」

これからの金型づくりの到達点は、「**ガスの瞬間吸引**」を可能にすることです。強制的にガスを排出し、滞留を根本から防ぐことで、メンテナンス頻度を従来の5分の1以下にまで低減させることが可能になります。

3. 「安さ」から「付加価値 (Win-Win)」へ

これからの時代、金型メーカーが追求すべきはコストダウンではなく、以下の 3 点を実現する「生産性特化型金型」の提供です。

1. **成形条件の固定化:** 誰が担当しても同じ品質が出せる。
2. **メンテナンスの削減:** 現場の工数を劇的に減らす。
3. **無停止成形の実現:** 24 時間止まらないラインを支える。

結論 金型メーカーが設計段階から「成形現場の生産性」に徹することで、成形メーカーの利益は最大化し、金型メーカーは高付加価値なパートナーとしての地位を確立できます。

「瞬間吸引」を武器にした金型づくりこそが、人手不足時代の製造業を救う唯一の道です。